

第2回 ライフジャケット着用体験会開催！！

第三管区海上保安本部マリンレジャー安全推進室では、一年中で、もっとも釣り客の事故が多い季節(10月～12月:平成20年調べ)を迎えるため、平成21年9月15日、横浜海上防災基地の訓練水槽にて、

第2回ライフジャケット着用体験会 を開催しました。



腰タイプのライフジャケットをつけ、波風激しい中を、余裕を持って浮いている体験者

今回は、『もし、あなたが釣りを楽しんでいる最中に、海に転落してしまったら・・・？』
『もし、あなたが、釣りを楽しんでいる最中に、海に転落した人を発見したら・・・？』

をテーマに、『ライフジャケット着用の重要性』と『早急な救助の必要性』『身近なもので人命救助』について、遊漁船の船長さんやスポーツ新聞の記者さん、ライフジャケットを販売している釣り具店の方が体験しました。

その体験模様も雑誌やインターネット上の番組でも紹介される予定です。

参加した方々からは

「ライフジャケットがない状態では、服がまとわりつき重くて泳げない。5分と短い時間であったが、浮いていることも精一杯。長時間救助を待つのは無理だと思う。」

「ライフジャケットを着けていれば楽に呼吸ができるので、あわてることなく、救助を待てると思う。」等ライフジャケットの重要性・有効性の声が多数あがりました。

参加者は、

- ① 浮いていること(ライフジャケットの着用や、ペットボトル・クーラーボックス)
- ② 連絡手段の確保(濡れても大丈夫な防水ケースまたは防水機能)
- ③ 緊急連絡番号の認識(118番)

上記3点の重要性を体感しました。